

わ

が

街

わ

が

故

郷

NSKニードルベアリング(株)と その周辺のご紹介

1. NSKニードルベアリング(株)の紹介

当社は1963年（昭和38年）1月、日本精工、米国トリントン社そして東京ベアリングの三社のジョイントベンチャーとして群馬県高崎市に誕生しました。

その後金型工場の完成、八幡工場の操業、そして榛名工場の建設により規模を拡大しつつ現在に至っております。



本社 高崎工場の正門

その間、合併の解消により2003年に日本精工の連結子会社「NSKニードルベアリング株式会社」として新たな歴史の一步を踏み出しました。

本社・高崎工場をはじめ八幡工場、榛名工場、NSK福島(株)内の福島事業所がありますが、海外では中国・常熟工場を中心に生産のグローバル化を展開しております。

また、国内の榛名工場は1号棟がスラスト軸受の専門工場、2号棟がC&Rの専門工場となっ

ており『世界No.1のA/T用ニードル軸受工場』を目指しております。



榛名工場

2. 高崎市の紹介

『つる舞う形の群馬県』これは群馬県の形を表したかるたの一首です。群馬県には郷土の歴史上の人物や名所、名産品などを取り入れた『上毛かるた』があります。群馬県人なら誰でも知っており、子供たちに郷土の文化や歴史を知ってもらい郷土を愛するよう願って作られたそうです。この『上毛かるた』の中で特に高崎市を端的に表現しているのが『関東と信越つなぐ高崎市』です。



上毛かるた



中核都市・高崎市

高崎市は関東平野の北端に位置し、壮大な榛名山をバックに遠く関東平野を望んでいます。古くから交通の要所であり、昔は三国街道、中仙道の交わる地として栄えました。

現在も関越自動車道、上信越自動車道そして北関東自動車道などの主要交通網が走り、鉄道も上越新幹線に加えて長野新幹線と東京からの利便性が高く、交通はもとより群馬県の産業、文化の拠点となっています。

また、『平成の大合併』により周辺の町村を加え人口は34万人となり、隣接する県都・前橋市を上回る群馬県最大の都市になっています。

3. 高崎市の著名人

高崎市は「自民党王国」として有名であり、自民党の大物政治家を多数輩出しています。中曽根康弘氏、福田赳夫氏、そして現内閣総理大臣の福田康夫氏も高崎市出身です。

また、市町村合併により旧群馬郡倉渕村が高崎市になりましたが、倉渕村は幕末の偉人・小栗上野介の終焉の地でもあります。高崎市街より草津方面に伸びる国道406号を40分あまり走った深い山あいの地域が旧倉渕村になります。

小栗は日本で最初の造船ドック・横須賀造船所を作りました。さらに日米間の金貨交換比率の不利益を糾した日本初の経済外交を成し遂げ、崩壊寸前の幕府財政を一手に切り盛りしました。そして晩年は土着し隠遁生活を送るためこの地に赴きました。

しかし、そこに待ち受けていたのは暴徒による反乱であり、「小栗騒動」として今でも地域の人々に語り継がれています。

小栗はこの地に屋敷を建て、後継の育成を考えていました。「いつかこの谷から太政大臣(総理大臣)をだしてみせる」と言ったそうです。その屋敷跡は国道406号に岩肌が押し出ている

観音山にあり、今は柱の礎石だけが草深い山頂に点在しています。

斬首刑にされた烏川畔には「偉人小栗上野介罪なくして此所に斬らる」と刻まれた慰霊碑が建ち、家紋の立波の旗が寒風に波打っています。

後に日露戦争・日本海海戦の英雄「東郷平八郎」元帥は、自宅に小栗上野介の遺族を招き、「このたびの海戦において、勝利を収められたのはあなた方の父上が横須賀造船所を日本のために建設しておいてくれたおかげです」と感謝し『仁 義 禮 智 信』と書いた書額を贈りました。それが旧倉渕村権田地区の東善寺に現存しています。

日本の近代化を夢見た悲しい偉人の願いが市町村合併により現実になったともいえます。



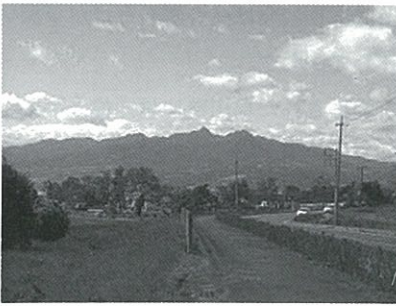
東郷平八郎から贈られた書額（東善寺 蔵）



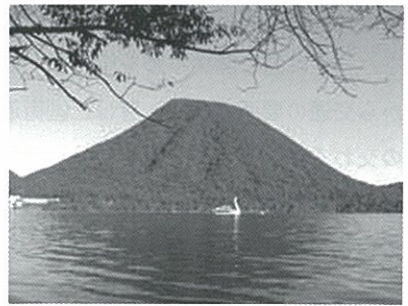
上野介終焉の地に建てられた顕彰慰霊碑

4. 榛名地区（旧榛名町）の紹介

高崎市榛名地区は町の北に上毛三山のひとつに数えられる群馬の名山・榛名山がそびえ、南には緩やかに起伏する里見丘陵があります。その間をほぼ東西に利根川の支流・烏川が流れています。



榛名の山なみ



榛名湖と榛名富士

産業はかつては養蚕が盛んでしたが、現在は果樹栽培に大きく変わっています。特に梨と梅の生産農家が多く、梅の生産量は東日本一を誇ります。筆者の妻の実家も梅を生産しており、6月から7月にかけて農作業の応援に出かけたりもします。

小梅は木の下にビニールシートを広げ、振動機や竹ざおで落として収穫します。しかし、通常の梅はキズをつけないよう籠を肩に脚立や木に登り1個1個手もぎで収穫します。収穫した梅は旋回機に掛け、外観の選別を行いながら大きさ別に振り分け、計量、箱詰めを行い出荷します。普段は全く緑のない農作業のため、初めは面白半分にしていますが一日終わるとぐったりと疲れが出ます。

旧榛名町は『湖と果物の町』をキャッチフレーズにしていました。榛名地区の主要幹線道路・国道406号線は今でも『くだもの街道』とも言われ、季節になると梨や桃、プラムの販売所が国道沿いに立ち並んでいます。

榛名山にはカルデラ湖の榛名湖が満々と水を湛え、湖面に写る榛名富士の雄姿は見る人の心を捉えます。この榛名湖は観光の目玉であり、夏はボートやキャンプで賑わいます。また、榛名湖にそそり立つ榛名富士は、山頂までロープウェイがありそこから関東平野が一望できます。



榛名富士を登るロープウェイ

そして冬はワカサギ釣りのメッカとして、県外からも多くの釣り人が訪れますが、温暖化の影響のためか全面凍結の時期が徐々に遅くなり、昨年はついに全面凍結になりませんでした。今年もいつ凍結するのか釣り人は気になるところかも知れません。



多くの釣り人で賑わう榛名湖ワカサギ釣り

旧榛名町のイベントの1つに「はるな梅マラソン」があります。3月の第2日曜日、榛名文化会館エコールをメイン会場に行われるマラソン

ン大会ですが、県外からも多くの選手が参加します。

ちょうど開催の時期には、コースとなる榛名梅林も梅の花が満開となり、色と香りで選手たちを迎えます。この大会には地元の小中学生も参加し、運営は多くのボランティアがあたり、アットホームな雰囲気が好評です。



「はるな梅マラソン」スタートライン



里見丘陵を駆けるランナーたち

当社の榛名工場の所在地は旧榛名町の中里見になりますが、その近接の地域に上里見があります。ここは夏の気象観測で非常に高い気温を記録するところでも有名です。榛名地区は烏川を挟んで東西が丘陵になっており、細長い盆地状になっているためです。

5. 少林山だるま市の紹介

さて、高崎市を紹介する『上毛かるた』に「縁起だるまの少林山」があります。当社の高崎工場から国道18号、それと平行して流れる碓

氷川の対岸に少林山だるま寺があります。高崎市の名品として全国に名を馳せていますが、70軒ほどの生産者により年間150万個が生産され、全国の80%を占めています。

少林山だるま寺では、毎年七草大祭の日に全国でも有名なだるま市が行われています。少林山だるま市は、七転び八起きにあやかり幸運を呼ぶと言われる縁起だるまが約100軒もの露店によって売られ、それを買い求める人たちが大変賑わっています。

6. 高崎市郊外の紹介

箕郷地区

市町村合併により榛名町と同様に箕郷町も高崎市になりましたが、旧箕郷町の北端に近いところに「みさと芝桜公園」があります。

暖かい春の日差しのもと、「みさと芝桜公園」では26万株の芝桜が一斉に花を咲かせ「みさと芝桜まつり」が開催されます。芝桜の丘を中心に、赤、白、ピンクの芝桜を帯状に連ね、うねり、渦巻きなどの模様を描いています。丘全体をおおいつくす色鮮やかな芝桜のじゅうたん、丘のふもと一面に咲いた菜の花は必見の価値があります。



箕郷地区にある「みさと芝桜公園」

また、箕郷地区には群馬県を代表する中世の城・箕輪城社があります。城は残っていませんが、当時の遺構がまだ破壊されずにかなりの部分がそのまま残っています。

箕輪城は大永6年（1526年）、長野業尚によって築かれた丘城です。長野氏は業尚の後は業政、

業盛と引き継がれ、業盛の代になって永禄9年(1566年)、甲斐の武田信玄の攻撃を受けて落城し、そこに長野氏は滅亡しました。

今、箕輪城は二の丸跡まで自動車で行くことができます。休憩所や案内板があり、そこを起点に城跡を歩いて一周することができます。搦め手は武田信玄との攻防戦の最大の激戦地でもあり、ところどころに残る遺構や石垣が往時を偲ばせます。



搦め手から二の丸をのぞむ



二の丸の堀に残る当時の石垣跡

高崎市は東京に近く、新しい文化が止めどなく入る若者文化の中心ですが、一方古い歴史も共存する町です。

高崎市周辺には伊香保温泉や磯部温泉など全国屈指の温泉地があります。是非、群馬県そして高崎市にお出かけ下さい。

(NSKニードルベアリング(株) 人事グループ
米山 宏一)

